

専門分野：小児看護学

〈概要〉

小児看護学は、小児の成長・発達と健康増進および疾病や障害を持つ小児と家族への看護を学ぶ学問です。

近年の小児と家族を取り巻く環境は、少子化・核家族化・価値観の多様化・女性の社会進出などに伴い急激に変化してきています。また、小児の健康問題は生活習慣病の増加・こころの問題・育児不安に絡む児童虐待など複雑化しています。

医療技術の進歩は多くの小児の命を救う一方で、病院に入院している小児の健康障害は重症化している傾向にあります。こうした状況の中、あらゆる健康レベルにある小児が健やかに成長・発達することができるよう、小児各期の発達段階の特徴を踏まえてそれぞれの健康レベルに応じた看護について学習します。

小児看護学は小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習の5つの科目から構成されています。

小児看護学概論（1単位 30時間）では、小児と家族を取り巻く環境・医療・看護の変遷と小児各期の成長・発達の特徴および健康増進のための看護について学習します。

小児看護学Ⅰ（1単位 15時間）では、染色体異常・胎内環境により発症する先天異常やハイリスク新生児の病態と治療、小児期における主な疾病や障害についての病態と治療について身体系統別に学習します。

小児看護学Ⅱ（1単位 30時間）では、疾病や障害が小児と家族に与える影響を理解し、疾病の経過や状況に応じた看護について学びます。また、さまざまな症状を示す小児、検査や処置を受ける小児と家族への看護を学習します。

小児看護学Ⅲ（1単位 30時間）では、小児期における主な疾病や障害を持つ小児と家族への看護について学習します。事例を通して小児の発達段階の特徴をふまえながら、疾病や障害の特徴とその経過や状況に応じた看護を学習します。

小児看護学実習（2単位 90時間）は、保育施設と病院で実習します。保育施設での実習は、小児の成長・発達と健康増進のための看護について学習します。病院実習では、疾病や障害を持ちながら生活する小児と家族への看護について学習します。

〈単位〉 6単位 195時間

〈目的〉

小児の成長・発達と健康増進のための看護、および疾病や障害を持つ小児と家族への看護を実践するための基礎的能力を養う。

〈目標〉

1. 小児の成長・発達と小児各期における発達段階の特徴を理解する。
2. 小児の成長・発達と健康増進のための看護を理解する。
3. 小児期における主な疾病や障害の特徴とその看護を理解する。
4. 疾病や障害が小児と家族に与える影響を理解し、その経過や状況に応じた看護を理解する。
5. 小児の健やかな成長・発達を支えるための社会資源の活用と看護の役割を理解する。

〈小児看護学の科目構成と単位時間数等〉

科目	単位	時間	年次	時期	学習内容
小児看護学概論	1	30	1	後期	・小児看護の特徴と理念 ・子どもの成長・発達 ・各期の特徴と健康増進のための看護 ・家族の特徴とアセスメント ・子どもと家族を取り巻く社会
小児看護学Ⅰ	1	15	2	前期	・染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療 ・ハイリスク新生児の病態と治療 ・小児期における主な疾患の病態と治療
小児看護学Ⅱ	1	30	2	前期	・病気、障害を持つ子どもと家族の看護 ・子どもの状況に特徴づけられる看護 ・子どもにおける疾病の経過と看護 ・子どものアセスメント ・症状を示す子どもの看護 ・検査・処置を受ける子どもの看護 ・障害のある子どもと家族の看護 ・子どもの虐待と看護 ・小児看護技術
小児看護学Ⅲ	1	30	2	後期	・染色体異常、胎内環境により発症する先天異常と看護 ・ハイリスク新生児の看護 ・小児期特有の疾患と看護 ・事故、外傷と看護 ・事例展開
合計	4	105			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学概論	専任教員	1 年次後期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 小児と家族を取り巻く環境・医療・看護を理解する。 2. 小児の成長・発達を理解する。 3. 小児の栄養を理解する。 4. 小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解する。 5. 小児にとっての家族の機能と役割を理解する。			
教科書		参考文献	
1)奈良間美保他:系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学[1] 2)小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院.		1)二宮啓子:小児看護学概論子どもと家族に寄り添う援助, 南江堂. 2)中野綾美:ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護, メディカ出版.	
評価方法			
受講状況, 小テスト, 筆記試験			
授業計画			
回	単 元	授業内容等	授業方法
第1～2 回	小児看護の特徴と理念	1. 小児看護の目ざすところ 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷 (4. 小児看護における倫理) 5. 小児看護の課題	講義
第 3 回	子どもの成長・発達	1. 成長・発達とは 2. 成長・発達の進み方 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長の評価 5. 発達の評価	講義
第 4～9 回	各期の特徴と看護	1. 新生児・乳児の特徴、養育および看護 2. 幼児・学童の特徴、養育および看護 3. 思春期・青年期の特徴及び看護	GW 講義
第 10 回	家族の特徴とアセスメント	1. 子どもにとっての家族とは 2. 家族アセスメント	講義
第 11～13 回	子どもと家族を取り巻く社会	1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健 6. 食育 7. 特別支援教育 8. 臓器移植	講義
第 14 回		小児看護における倫理	GW
第 15 回	試験		

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学Ⅰ		医師	2 年次前期	1 単位／15 時間
科目目標				
1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療を理解する。 2. ハイリスク新生児の病態と治療を理解する。 3. 小児期における主な疾病や障害の病態と治療を理解する。				
教科書			参考文献	
1)奈良間美保他:系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学[2]小児臨床看護各論、医学書院.			1)鴨下重彦:こどもの病気の地図帳、講談社. 2)石黒彩子:発達段階からみた小児看護過程、医学書院	
評価方法				
筆記試験				
授業計画				
回	単元	授業内容等		授業方法
第 1 回	先天異常・ハイリスク新生児の病態と治療	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) 常染色体異常 2) 性染色体異常 2. ハイリスク新生児 1) 未熟児・低出生体重児 2) 新生児仮死 3) 呼吸窮迫症候群		講義
第 2～7 回	小児期特有の疾患と治療	1. 代謝性疾患、内分泌疾患 1) 新生児マススクリーニング2)糖尿病 3) 中枢性尿崩症 4) 成長ホルモン分泌不全性低身長症 5) 甲状腺機能亢進症 6)クレチン症 2. 免疫・アレルギー性・リウマチ性疾患、感染症 1) 食物アレルギー2) 気管支喘息 3) 若年性特発性関節炎 (JIA) 4)ウイルス感染症 5)細菌感染症 3. 呼吸器疾患、循環器疾患 1)肺炎 2 先天性心疾患 3) 川崎病 4. 腎泌尿器疾患 1)ネフローゼ症候群 2) 溶血性レンサ球菌感染後急性糸球体腎炎 5. 消化器疾患 1) 口唇裂・口蓋裂 2) 食道閉鎖症 3) 肥厚性幽門狭窄症 4) 鎖肛 5) 胆道閉鎖症 6) 腸重積 7) ヒルシュスプリング病 8) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎 (ロタウイルス・ノロウイルス) 6. 血液・造血器疾患、悪性新生物 1) 特発性血小板減少性紫斑病 2) 血友病 3) 白血病 4) 神経芽腫 7. 神経疾患 1) けいれん・てんかん 2) 脳性麻痺 3) 水頭症 4) 二分脊椎 5) 筋ジストロフィー症 8. 運動器疾患 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸 4) 特発性脊柱側彎症 5) 骨折 9. 皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患 1) 母斑 2) アトピー性皮膚炎 3) 斜視 4) 中耳炎 5) 扁桃肥大 10. 精神疾患 1) 発達障害 2) 行動上の障害		
第 8 回	試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学Ⅱ	専任教員	2 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 病気や障害が小児と家族に与える影響と看護を理解する。 2. さまざまな状況にある小児と家族の看護を理解する。 3. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護を理解する。 4. 小児のアセスメントに必要な技術を理解する。 5. さまざまな症状を示す小児の看護を理解する。 6. 検査・処置を受ける小児の看護を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 奈良間美保他:系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学[1] 小児看護学概論小児臨床看護総論、医学書院。 2) 山元恵子:写真でわかる小児看護技術改訂第3版、インターメディカ.		1) 小野田千枝子:こどものフィジカルアセスメント 金原出版.	
評価方法			
受講状況、小テスト(10 点)、筆記試験(90 点)			
授業計画			
回	単 元	授業内容等	授業方法
第 1 回	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2. 子どもの健康問題と看護	講義
第 2～3 回	子どもの状況に特徴づけられる看護	1. 入院中の子どもと家族の看護 2. 外来における子どもと家族の看護 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 4. 災害時の子どもと家族の看護	講義
第 4～5 回	子どもにおける疾病の経過と看護	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護 3. 周手術期にある子どもと家族の看護 4. 終末期にある子どもと家族の看護	講義
第 6～7 回	子どものアセスメント	1. コミュニケーション 2. バイタルサイン 3. 身体計測 4. 身体的アセスメント	講義
第 8～9 回	症状を示す子どもの看護	各症状を示す子どもの看護	GW
第 10 回	検査・処置を受ける子どもの看護	1. 与薬 2. 輸液管理 3. 抑制 4. 検体採取 5. 排泄援助 6. 酸素療法 7. 一次救命処置 8. 気道内異物除去	講義

第 11 回	障害のある子どもと家族の看護	1. 障害のとらえ方 2. 障害のある子どもと家族の特徴 3. 障害のある子どもと家族の社会的支援	講義
第 12 回	子どもの虐待と看護	1. 子どもの虐待への対策と看護	講義
第 13～14 回	小児看護技術	1. バイタルサイン測定 2. 採尿 3. 一次救命処置	校内実習
第 15 回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
小児看護学Ⅲ	専任教員・看護師	2 年次後期	1 単位／30 時間	
目的・目標				
1. 健康障害のある小どもの看護を発達段階別・経過別・治療別に学ぶ。 2. 小どもの健康上の問題を解決するための思考過程を明確に出来る。				
教科書		参考文献		
1) 間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学〔1〕 小児臨床看護各論, 医学書院.		1) 五十嵐 隆：小児看護ケアマニュアル, 中山書店 2) 鴨下重彦：こどもの病気の地図帳, 講談社. 3) 石黒彩子：発達段階からみた小児看護過程, 医学書院		
評価方法				
受講状況, レポート (30 点), 筆記試験 (70 点)				
授業計画				
回	単 元	授業内容等	授業方法	授業担当
第 1～3 回	小児期特有の疾患と看護	1. 先天異常の疾患を持った子どもの看護 2. 疾患を持つ新生児の看護	講義	看護師
第 4～11 回		3. 代謝性・内分泌に障害のある子どもの看護 4. 免疫性疾患、アレルギー性疾患、ウィルス感染症、リウマチ性疾患のある子どもの看護 5. 呼吸器系、循環器系に障害のある子どもの看護 6. 腎・泌尿器、生殖器に障害のある子どもの看護 7. 血液・造血器系に障害のある子どもの看護 8. 悪性新生物疾患のある子どもの看護 9. 神経系に障害のある子どもの看護 10. 運動器に障害のある子どもの看護 11. 重症心身障害のある子どもの看護 12. 医療的ケアを必要とする子どもの看護 13. 在宅医療を受ける子どもの看護 14. 災害時における子どもの看護	講義	専任教員
第 12～14 回	事例展開	1. 事例を用いて看護の実際を考える	演習	専任教員
第 15 回	試験			